

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 23 日現在

機関番号：14403

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2014

課題番号：25780478

研究課題名(和文) 特別支援教育における学習集団の指導方法と教材開発

研究課題名(英文) The Teaching Method and the Development of Teaching Materials of the Learning Group in Special Needs Education

研究代表者

吉田 茂孝 (YOSHIDA, SHIGETAKA)

大阪教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：60462074

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、「特別な教育的ニーズ」のある子どもを含む学習集団への指導方法と教材開発について、日本の授業研究とともに、ドイツ教授学の文献研究をはじめ、日本の実践現場へのフィールドワークやドイツへの現地調査などから検討した。学習集団への指導方法としては、「つまずき」を生かした授業の再評価、学級での「ルール」づくりの過程、日常的に展開する集団づくり、が注目されていた。教材開発には、学習意欲を引き出す動機づけに向けて実感や他者との関係を伴う授業過程、教科のもつ文化的価値としての教材文化、教材の教科内容との適切な関係、という視点が求められる。

研究成果の概要(英文)：In this study, I examined the teaching method and the development of teaching materials to the learning group including the child with "special educational needs" from documents study of the Germany didactics with a Japanese class study and from field works in Japan and Germany. As the teaching method to the learning group, the reevaluation of the class by using classroom mistakes, the process of making rules in the class, and group formation unfolding routinely were focused on. It is necessary to have the viewpoint of the class process with the relations with an actual feeling and others, teaching materials culture as the cultural value of the subject, and the appropriate relations with the subject contents of the teaching materials for the development of teaching materials.

研究分野：社会科学

キーワード：教育方法学 学習集団 授業づくり 指導方法 教材開発 特別な教育的ニーズ ドイツ インクルーシブ教授学

1. 研究開始当初の背景

特別支援教育の開始から、通常学級における「特別な教育的ニーズ」のある子どもの支援を重視する傾向は強くなり、「特別な教育的ニーズ」のある子どもへは個別の対応が注目されている。

こうした通常学級において編成される学習集団では、授業成立にとって「特別な教育的ニーズ」のある子どもだけではなく、周りの子どもに対して指導していく必要がある。そのため、2008～2009年度の科研費の補助を受けた研究において、「特別な教育的ニーズ」のある子どもには一つの班に所属するだけではなく、グループ、チームなど複数の小集団に所属するといった「複数の居場所（それは、避難所でもある）」が必要であること、日々の学級指導と授業指導の相互作用が子どもどうしの「つながり」をつくり出すこと、を文献研究と実践分析から明らかにした（「特別支援教育において編成される多様な子どもの学習集団での授業実践の教授学的研究」若手研究(B)課題番号 20730524）。

しかしながら、授業において周りの子どもと「つながる」ことができず、「お客様」扱いや「特別」扱いされたりする「特別な教育的ニーズ」のある子どもが、周りの子どもたちと「つながる」ための学習集団への指導方法や、授業の中でかかわり合いをつくり出す教材の開発は課題である（湯浅恭正編『特別支援教育を変える授業づくり・学級づくり全3巻』明治図書、2009年、また近年、日本教育方法学会の課題研究などでも議論されている）。こうした課題に対して、日本では、これまで、学習集団づくりが展開され、今日では、学びの共同体の実践なども試みられている。また、ドイツでは、多様な子どもが存在する学級やグループで学ぶ、「異質なグループでの学び」や「協同学習」が注目されている（Kiper, H. u. a.: Lernarrangements für heterogene Gruppen. Julius Klinkhardt Verlag, Bad Heilbrunn, 2008, 吉田茂孝・高木啓『『異質性』をめぐるドイツ教育学の動向 - 「個別化」との関係性から - 』研究紀要』第52・53合併号、2010年、201～217頁）。

2. 研究の目的

本研究の目的は、特殊教育から特別支援教育への転換によって注目されている「特別な教育的ニーズ」のある子どもを含む通常学級で編成される学習集団を、日本の授業研究の動向とともに、教授学研究の盛んなドイツを中心に検討し、「特別な教育的ニーズ」のある子どもが、授業において周りの子どもたちと「つながる」ための学習集団への指導方法と、子どもどうしのかかわり合いをつくり出す教材を開発することである。

3. 研究の方法

本研究では、「特別な教育的ニーズ」のあ

る子どもを含む通常学級で編成される学習集団に焦点をあて、学習集団論・学びの共同体論を中心に文献研究及びフィールドワークと、ドイツへの現地調査を行い、文献収集と関係者への聴き取りを行った。具体的には以下のとおりである。

(1) 日本の特別支援教育の研究動向とともに、学習集団論・学びの共同体論の研究を中心に文献収集を行った。特に通常学級を研究対象とした授業研究などに関係する文献を収集し、「特別な教育的ニーズ」のある子どもを含む「すべての子ども」を対象とした授業論を考察した。

(2) 学習集団論・学びの共同体論による授業改善に取り組む広島、長崎、福岡、香川の授業研究会やサークルへ参加し、資料収集や教育現場の生の声を聴き取り、意見交換などを行った。また、月に1～2回程度、1年間を通して特定の小学校で授業を参観するなどフィールドワークを行った。そのさい、「特別な教育的ニーズ」のある子どもを含む通常学級で編成される学習集団への指導方法を分析した。

(3) 国際的な視点として、教授学の研究が盛んなドイツを中心に文献研究はもちろんのこと、ドイツへの現地調査を行い、文献収集や関係者への聴き取りを行った。とりわけ、授業の個別化の視点について、吉田成章准教授（広島大学）の協力を得て、Hanna Kiper教授（オルデンブルグ大学）などの助言を得ることができた。

4. 研究成果

(1) 通常学級において特別支援教育、特に発達障害児への支援を取り入れ、「すべての子ども」を対象にした現在の授業論の研究課題を整理した。そのさい、第一に、教師が「一斉」に教えるだけの授業スタイルだけではなく、集団の中で多様なかかわり合いをつくり出す指導の必要性が明らかになった。第二に、授業づくりにおける個と集団の関係の追求である。具体的には、一斉授業とともに個別指導の必要性を考察することで、固定的なレッテルを貼るような「個に応じた」指導ではなく、子ども一人ひとりの可能性を引き出す「個を生かす」教育観、一対一の個別指導だけではなく、集団指導を含む「個別の指導計画」の視点、「特別な教育的ニーズ」のある子どもを取り巻く人々との関係から間接的な指導を導く「個人指導」、が求められる。第三に、学習集団内の固定化した関係性を組み替えるために、生活綴方の再評価、競争的価値観を組み替え共感的自己肯定感が高まる取り組み、「教え合い」から「学び合い」への転換に向けての実践的視点が必要である。

(2)一定期間継続して授業を参観するなどフィールドワークを実施した小学校の授業記録とその分析を行った。第一に、発達障害児への支援として、授業において「見通し」を持たせることが構想されているが、「見通し」とは答えを簡単に出すためのものや正答主義を助長するものでもない。そうではなくて、子どもたちが学習課題を考え合う授業のプロセスの重要性や「誤答」「つまずき」等を含めた多様な考え方を導く視点が求められる。第二に、学習集団内の関係性の組み替えについて、一つの正解を求めることに注目したり、「正答」を早く求めたりする競争的価値ではなく、多様なやり方から、自分の答えも認められる、多くの仲間と意見交換することで、自分の意見が言うことができる(=参加することができる)、といったことから共感的自己肯定感を育むことが求められていた。第三に、学級活動で作り出す関係性では、「関係ある子」と「関係ない子」といった固定した関係性を捉え直し、教師が関係を作り出す、またはその関係性を組み替えるような指導が求められていた。特に集団意識、仲間意識のある視点、といった学習集団形成の視点を析出した。

(3)学習集団への指導方法の視点として、第一に、発達障害児への支援に見られる授業の「わかりやすさ」の追求や「つまずき」の未然防止といった指導方法の課題を整理し、参加のあり方や「つまずき」を生かした授業づくりを考察した。特に、「つまずき」には、どの子にも起きる「つまずき」と、障害特性に応じた支援の視点が求められる「学習困難」の二つが議論されていた。第二に、「特別ルール」について検討し、民主的な異議申し立ての仕方や「ルール」を共同決定し、活動し、点検し、「ルール」を変革していく機会としての意義を明らかにした。特に子どもたちに「ルール」を一方向的に強いるのではなく、「ルール」づくりにおいて当事者としての意識が求められる。第三に、教科教育では教科内容の習得、教科外教育では集団を高めることなどの相対的独自性のもと、日常的に展開する集団づくりを通して学級内の現実の人間関係を捉え直し、関係性を組み替えることを検討した。

(4)教材開発の視点として、第一に、学習意欲を引き出す動機づけから、教材に対する魅力とともに、課題解決過程や作業過程において子どもたちに「実感」を与えることを検討した。また、課題解決過程や作業過程において「他者」とよりよい関係を築いていこうとする工夫が求められる。第二に、教材文化について、教えたい内容の背景にある文化的価値をふまえる必要がある。例えば、言葉のおもしろさや音の楽しさ、運動文化などである。また子どもたちの発達ニーズに応じた教材の可能性を考察した。そこでは、教材解

釈をするさい、子ども理解の視点を含めて検討することが求められる。第三に、教材と教具の違いとその使い方から、教材と教具の概念を区別したうえで、今日注目されているICT教育のあり方や学習材について整理した。なお、教材開発においても、他者や集団との関係から開発する視点を再確認した。

(5)日本の特別支援教育に見られる授業づくりと、ドイツの特別教育(Sonderpädagogik)やインクルーシブ教育の研究動向とを比較検討し、ドイツから示唆される課題をまとめた。また、ドイツのインテグレーションからインクルージョンへの発展に見られるインクルーシブ教授学の展開動向を、1970年代の個別化の議論から今日までどのように継承・展開されてきたのかに焦点をあてて検討した。特に、フォイザー(Feuser, G.)やザイツ(Seitz, S.)らのインクルーシブ教授学への転換を巡る議論から、学習集団の指導方法や教材のあり方についても関係するような個別の学びと共通の学びの意義や、差異性における相似性を整理した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

吉田茂孝「『授業のユニバーサルデザイン』の教育方法学的検討」『障害者問題研究』第43巻第1号、2015年、18-25頁、査読無。

吉田茂孝「ドイツにおけるインクルーシブ教授学の展開」大阪教育大学大学院学校教育専攻教育学コース編『教育学研究論集』第12巻、2015年、1-7頁、査読無。

佐藤仁・樋口裕介・吉田茂孝・岡花祈一郎「実践的指導力をめぐる教員養成研究の新たな研究視角の模索—教育方法学、特別支援教育、保育者養成の議論を手がかりに—」『福岡大学研究部論集B：社会科学編』2013年、61-75頁、査読無。

[学会発表](計5件)

吉田茂孝「特別支援教育の視点を取り入れた通常学級の授業づくり」中国四国教育学会第66回大会、2014年11月16日、広島大学(広島県・東広島市)。

吉田茂孝「ドイツにおけるインクルーシブ教授学の理論的展開」日本教育方法学会第50回記念大会、2014年10月11日、広島大学(広島県・東広島市)。

吉田茂孝「特別支援教育における学習集団指導のあり方」中国四国教育学会第65回大会、2013年11月3日、高知工科大学(高知県・香美市)。

吉田茂孝「特別支援教育における授業論の研究課題」日本特別ニーズ教育学会第19回研究大会、2013年10月20日、北海道教育大学札幌校(北海道・札幌市)。

吉田茂孝「通常学級における特別支援教育の視点から見た教科教育と教科外教育の関係」日本学校教育学会第28回全国大会、2013年8月3日、鳴門教育大学(兵庫県・鳴門市)。

〔図書〕(計4件)

吉田茂孝「すべての子どもが『わかる』授業づくりの方法論」インクルーシブ授業研究会編『インクルーシブ授業をつくる—すべての子どもが豊かに学ぶ授業の方法—』ミネルヴァ書房、2015年、48-59頁。

吉田茂孝「特別支援教育からの教科教育への提言—通常の教育における教科教育と教科外教育」富永光昭・木原俊行・池永真義編『教科教育のフロンティア』あいり出版、2015年、187-194頁。

吉田茂孝「授業の目標設定と集団づくり」「教材開発と授業づくり」「授業の評価と授業改善」湯浅恭正・新井英靖・吉田茂孝『特別支援教育の授業づくりキーワード』明治図書、2014年、36-51頁、52-63頁、116-127頁。

吉田茂孝「インクルーシブ教育からみたスタンダード化の課題」久田敏彦監修・ドイツ教授学研究会編『PISA 後の教育をどうとらえるか—ドイツをとおしてみる—』八千代出版、2013年、161-179頁。

6. 研究組織

(1)研究代表者

吉田 茂孝 (YOSHIDA SHIGETAKA)

大阪教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：60462074